

6月末で88%を処理

三和区宮崎新田に放置された不法産業廃棄物の撤去作業

上越市は14日、三和区宮崎新田で進められている放置された産業廃棄物の撤去作業の現地説明会を行いました。

現地では、作業を担当している生活環境

課と三和区総合事務所の関係者や、実際に作業に当たっている処理業者の担当者が、現在の進捗状況について詳しく説明しました。日本共産党議員団からは橋本正幸議員

と平良木哲也前議員が参加し、説明を受けました。

説明によると、このところの安定した天候もあって作業は順調に進み、先月末で推定処理量の88.3%を処理することができ、8月中には掘削・選別・搬出を終了し、9月末までには跡地の成形作業も終了できる見通しであるとのことでした。

現地を見ると、今年の作業開始時とは打って変わって廃棄物がほとんど無くなり、山の地肌が出ていました。

処理した廃棄物の内容は下の通りで、作業の終了に近づくにつれ、搬出物はほとんどが汚泥や雑物になっているとのことでした。また、廃棄物と地山の境界面では汚泥

と地肌が混在しているため、地肌を20cmほど削り取りながら処理しているとのことでした。

参加した地元市民からは、「この20年間に廃棄物からしみ出した汚水などで、地表や地中、地下水などが汚染されているのではないかと心配している。地表は20cm程度ではなく、50cmは削り取るべきではなかったか」との指摘がありました。市の担当者は「下流の水質検査を行っており、生活には影響がないものと考えている。今回の事業は県の行政代執行の際に残置された廃棄物を撤去するという作業であり、それは全うしている」と答えました。

廃棄物そのものをすべて搬出することは

大きな前進です。しかし、長期間にわたって放置されてきた廃棄物による地下水汚染などの影響は、必ずしも全容が明らかではありません。何よりも必要なことは、汚染に関する市民の心配を解消することです。今後とも市民の意見をよく聞き、適切に対応すべきです。



推定処理量・搬出量・処理費用（平成30年6月末現在）

搬出量等	（単位：t）						
	木くず	コンクリートがら	プラスチック	金属	自然石	雑物類	汚泥
推定処理量	11,200 ①	1,055	2,204	10	174	200	77
5月末までの搬出量	8,104	51	50	6	25	21	930
当月搬出量	1,786	0	0	0	0	0	78
累計搬出量	9,890 ②	51	50	6	25	21	1,008
処理業者	(株)源建設 (吉川区)	(株)三商 (清里区)	㈱アイザック・オール (富山市)	上越マテリアル㈱ (保倉区)	(株)源建設 (吉川区)	・セメント資源化・明星セメント㈱糸魚川工場(糸魚川市) ・最終処分場・㈱アイザック・オール(富山市)	
進捗率(②÷①×100)	88.3%	処理費用 (着手から6月搬出分の処理まで)		約3億3,000万円			

日本共産党上越市議員団ニュース

No.596 2018年7月22日

連 橋爪 法一 090-5392-1961 (吉川区代石)
 絡 橋本 正幸 080-1980-9855 (三和区鴨井)
 先 上野 公悦 090-7260-9407 (頸城区中柳町)

学びの交流館で原爆パネル展

7月9日(月)～15日(日)の8日間、上越市原水協などによる原爆パネル展が、直江津学びの交流館で行われました。

原爆投下時の悲惨な実態を捉えた写真パネルに、「二度と繰り返してはならない」ことを誓わずにはられない展示でした。

